

令和6年度第1回 高砂市文化振興審議会

公開用

日 時 令和6年8月6日(火) 18:00～
場 所 高砂市役所南庁舎5階 大会議室

出席委員	会 長	田端 和彦	委 員	小川 博子
	副 会 長	藤村 清春	委 員	伊東 節子
	委 員	岩見 一美	委 員	松下 尚平
	委 員	天野 富美男	委 員	藤田 義一

欠席委員	委 員	加茂 朋之	委 員	中野 哲郎
------	-----	-------	-----	-------

出席事務局職員

健 康 こ ど も 部 長	藤田 将太郎
健康こども部健康文化室参事	三浦 一郎
教育部教育推進室長	福本 典子
教育部学校教育室長	平山 健二
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課長	井村 欽也
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課 係長	澤田 伸也
健康こども部健康文化室 文 化 ス ポ ー ツ 課	吉川 敦子
健康こども部健康文化室 文 化 ス ポ ー ツ 課	吉岡 耕平
健康こども部健康文化室 文 化 ス ポ ー ツ 課	石井 千草

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ
- 3 議 題
 - (1) 令和5年度事業結果について
 - (2) 令和6年度事業計画について
- 4 そ の 他
 - (1) 今後のスケジュール
- 5 閉 会

○司会

すみません、お待たせしました。

それで、会長がちょっと遅れてるんで、先に始めさせてもらいたいと思います。まず、オープニングとしまして、謡曲「高砂」全員合唱を行いたいと思います。お手元の配布資料に「謡曲高砂」の詞章がありますので、ご覧ください。全員ご起立願います。

(謡曲「高砂」合唱)

○司会

ただ今より令和6年度第1回高砂市文化振興審議会を開催いたします。開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただきますが、本日傍聴希望者はございません。委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。それでは、ここで、本日の資料の確認を行いたいと存じます。それでは、お手元の資料の確認をお願いします。本日配布させていただきました資料が

- ・委員席次表
- ・会議次第
- ・審議会委員名簿
- ・謡曲「高砂」の詞章
- ・(資料1) 令和5年度事業結果
- ・(資料2) 令和6年度実施計画書
- ・(資料3) 各委員からの意見・質問一覧表

そして、「第2次高砂市文化振興基本方針 実施計画の体系」と題しています、「A4」1枚ものの資料。あと、宣伝としましてチラシを数枚配布させてもらってます。以上となっております。皆さまお揃いでしょうか。

それでは、当審議会の開催にあたりまして、都倉市長より挨拶申し上げます。

○市長

はい。

皆さんこんばんは。

本日は大変お忙しい中、高砂市文化振興審議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

平素から、本市の文化行政をはじめ、市政全般にわたりましてご理解、ご支援を賜っておりますことをこの場を借りまして御礼を申し上げたいと思います。

また、本審議会におきましては、終始熱心にご審議を賜り、市の文化交流のために貴重なご意見をいただいておりますことを、あわせてお礼を申し上げたいと思います。

さて本市では、平成23年に高砂市文化振興条例を制定させていただきまして、平成25年に設定した高砂市文化振興基本方針に示す、文化を大切に、ふるさとを愛する人が集うまち高砂の実現を目指し、10年にわたり他に様々な施策を進めて参りました。

この間、「高砂文化教室『高砂学』」の開講や、「高砂市美術展」の再開など、積極的に文化事業を展開してまいりました。

最初に謡曲高砂を謡わせていただきましたけど、先日7月22日に、BSよしもとの収録が高砂市でありまして、吉本興業の方で、各市町村長さんが歌自慢で町自慢という企画で、全国で、吉本の芸人さんが、各市町村に取材に行かれて、それをYoutubeでネット配信されます。

実は私、謡曲高砂を、高砂神社の相生の松まで行きまして、その前で、演奏はないんですけど、謡わせていただきました。

この8月13日からYoutubeで見れるようになっておりますので、是非ともBS吉本、市長で検索していただいたら、出てくると思います。

シティプロモーションの方もですね、高砂市のPR、市役所のほうに芸人さんが来てもらいましたね、高砂市のPRも含めてやらせていただいております。

そのユーチューブを見ていただきますと、少し前に播磨町長さん、佐伯町長さんが説明をされてまして、兵庫県、順番に回ってますし、他の全国いろんな市長、町長が出てきて、歌自慢をされてます。

カラオケを使って、ほとんど歌われてるんですけど、私の場合は、謡曲高砂になりますけど、楽しみにしておいてください。

余計な話をしましたけど、令和5年3月に策定しました「第2次高砂市文化振興基本方針」では、『つむぎ つながり つくりだす 文化と共に育つまち 高砂』を理念とし、引き続き、文化振興によるまちづくり施策を推進しているところです。本日は、この「第2次高砂市文化振興基本方針」の進捗状況と「令和5年度実績」、「令和6年度実施計画」についてご審議いただく予定でございます。委員の皆様活発なご議論をお願い申し上げますとともに、今後とも本市の文化振興にご理解とご協力を賜りますようお願いを申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本来ならここで会長の挨拶になるんですが、渋滞のため遅れてるという連絡がありましたんで、また来てからということをお願いします。

ここで市長は他の公務のため、退席させていただきます。

○司会

ありがとうございました。

それでは、引き続きまして事務局職員の紹介をさせていただきます。

健康こども部長 藤田 です。

健康文化室長 三浦 です。

教育委員会 教育部教育推進室長 福本 です。

教育委員会 学校教育室長 平山 です。

文化スポーツ課 係長 澤田 です。

文化スポーツ課 吉川 です。

文化スポーツ課 吉岡 です。

文化スポーツ課 石井 です。

最後になりますが、本日司会進行を務めさせていただきます、文化スポーツ課長 井村 です。どうぞよろしくお願いします。

(職員紹介)

○司会

加茂委員、そして中野委員より本日欠席の申し出がございました。委員につきましては途中からの参加になる旨、連絡を受けております。

本日の会議ですが、出席者 8 名、欠席者 2 名により、審議会規則第5条第2項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることをご報告いたします。

議事進行については審議会規則第五条第1項により、会長なんですが副会長の方にお譲りしたいと思いますよろしく申し上げます。

はい。

○副会長

それでは、次第によって進めさせていただきたいと思います。次第の方が、令和5年度事業結果について、令和6年度事業の計画についてなんですけども、事務局お願いできますでしょうか。

○事務局

令和5年度事業結果について、ご説明いたします。

資料1でございます。説明に入るまでにまずは、本日お配りしております資料1、そして資料

2につきましては、第2次高砂市文化振興基本方針に沿う形で、資料1には令和5年度の事業実績、資料2には令和6年度からの計画という形でまとめております。

それから、本日お配りしているこの資料では一部赤字表記になっている部分がございます。これは事前に委員の皆様にお配りしたのちに修正があった箇所を示すものでございます。主な修正理由は表記誤りのよるものと、表現があっていなかった部分の修正によるものでございます。よろしくお願いいたします。

それでは、（資料1）「令和5年度事業結果」をご参照ください。

令和5年度事業結果について施策番号順に提示しております。

この施策番号につきましては、「第2次高砂市文化振興基本方針」冊子では26ページから32ページに記載しております、番号の前3桁は基本目標、施策、施策の展開を示しております、この内容を整理したものが、本日資料の「第2次高砂市文化振興基本方針 実施計画の体系」と題した資料になります。そして、この施策の展開の中に事業名が設定されており、その事業名ごとにハイフンのあと2桁の枝番でお示ししております。

各事業の評価にかかることについては、表の右側に「成果・実績」、「評価」、「評価説明」という形でお示ししております。

再掲も含めた全事業項目数352項目に対し、S評価が15項目、A評価が301項目、B評価が16項目、C評価が14項目、評価なしが6項目となっております。

それでは、主なものをご説明いたします。

1ページ、111-01番、高砂学ですが、令和5年度は、活動編6回、講座編2回、寺子屋編1回、謡曲編4回を実施しました。講座編は「ため池のひみつ」をテーマに高砂市治水対策課に、「水道事業100周年」をテーマに高砂市上下水道部長に講義を行っていただきました。高砂の水道事業について学ぶ機会となりました。

続いて111-03番、高砂こども狂言ワークショップについては、認定こども園等を対象に14回実施し、594人が参加しています。

続いて2ページ、111-08番、市民ギャラリー「あいぽっと」の活用です。これは目標5団体に対し6団体という実績で「S」評価となっております。次に、4ページ、111-22番についてきましては高砂観月能が実施しなかったということで「C」評価です。次に、5ページ、112-05番、文化会館の施設整備でございますが、指定管理者の小修繕に加え、文化会館非常用発電機更新工事と中ホールのスポットライトの更新を行いました。

次に19ページ、211-21番、東播磨文化団体連合会事業ですが、令和5年度は東はりまコーラス大会を高砂市で開催しました。市内団体から4団体参加し、当日は490人の参加者がございました。

次に、21ページ、212-11番、防火ポスターですが、これは応募数が10点に満たない小学校があり、小学校10点を達成できなかったため「B」評価となっております。次に24ページ、212-31番、高砂市役所ロビーコンサートですが、令和5年度は周知期間として、高砂市文化連盟の各団体から出演していただき、合計で9回実施いたしました。毎回80人から100人程度の参加者があり、来場者からも好評いただいております。ご協力いただきました皆様、ありがとうございます。

簡単ですが、説明は以上でございます。

○会長

大変申しわけありません。

今回、令和6年度の第1回ということで、これまでも、この第二次基本方針の策定にあたり、皆様からのご協力いただきながら、昨年といたしましても、これに基づいて、今年度の事業を進めていただいているということでございます。

事前に皆様の方からご質問等いただいているので、まずはこちらの方をご確認いただいて、さらに、ご質問、或いはこれに追加の内容ですとか、ご質問とかあれば、お伺いしようかなというふうに思うんですが、まずはそういう形で、よろしいですかね。

その上で、まず質疑応答させていただきたいと思うんですが、今この資料を今日の朝もらって、ご質問名前が入ってなかったと思うので、皆さんの質問内容とそれからご回答を見ていた

だいて、これでは不十分だとか、或いはもう少し詳しいご回答をとというところをまず、ご指摘
いただいて、その上で、ご回答いただこうと思います。

もし、特に回答内容で問題がないということであれば、それ以外のことでお気づきの点とか
つていうことを、ご質問いただきたいと思います。まず、いかがでしょうか。

このご質問に対するご回答、それぞれ、ご質問された方は、どんなご質問だったか多分わか
ると思いますので、それを、聞いていただいてご回答をご確認いただければと思います。

○副会長

意見質問の一覧表の 111 の 21、映画の魅力を伝える事業というところは私が質問したとこな
んですけれども、高砂の、いろんな形をですね、PR をもっと進めていって欲しいことで、高砂
高校のスイングガールズが、東北を舞台にすることになったんですけれど、本当は高砂高校のジ
ャズバンドを扱ったわけですから、高砂でして欲しいなと思いました。

またピアニストのフジコヘミングさんがね、NHK に出られて一夜で有名になるということがあ
ったんですけれども、やっぱりそういう面での映画とか、テレビとか、そういうのはものすごい
影響力が大きい。ラストサムライのトムクルーズが姫路からヘリコプターで降り立ったという
ことで、話題も含めて、非常に有名になったところでもあります。そこら辺を回答として、ロ
ケ地として売り込みをすべく、市内のスポットを対象とした動画を作成する予定ですという回
答いただいていますので、ぜひ、やっていただきたいと思います。

それから質問の、1 ページ目なんですけど 121-01、高砂文化教室「高砂学」ということなんで
すけれども、もちろん今取り組まれていることは全て評価しますし、素晴らしいことだと思っ
てます。

合わせてということになると思うんですけれども、その、どうやって抱き合わせするかっ
ていうのは、また考えるところになるのかなと思うんですけれども、工楽松衛門さんとか、美濃
部達吉さんとか、山片蟠桃さんとか、そういう高砂の著名な方、高砂に、高砂市民が誇りを持
つ、高砂がふるさとなんだと言える、そういう方が講座を作っていたらなというふうに
思ったりはしてるもんですので、あげさせてもらっております。

以上私の質問でございます。

○会長

ありがとうございました。

主に発信というところであるとか、先ほどご紹介した文化振興の高砂市状況の課題の 1 番目
であるのが、積極的かつ効果的な情報発信ということになっておりまして、やはり情報発信、
せっかくすぐれた文化的資産があるにもかかわらず、その情報発信ということについて、やは
り、もう少し配慮が必要なんじゃないかという、またそこに立脚してのご質問ではないかとい
うふうに思っております。

そういう意味では、今、課題となってる部分の解決のためにどういうふうに、こういった取
組みをということで、特にこれはシティプロモーション室ですかね。

ご質問対象は、副会長のご質問に対してお答えがあればお願いしたいのですが。

○事務局

はい。

すいません。事務局です。

シティプロモーション室の方からはご回答いただいたこの内容ロケ地としての運営をすべく、
市内のスポットを対象とした動画を作成する予定というふうにご回答いただいております、
あとシティプロモーション室だけではなくて、観光ビューローであるとか、新たな動画を作
成していく時には市内のものだけではなくて、外部の人たちも入りながら、こういった PR を
作っていくかっていうのは検討されるともちろん思うので、そのあたりは、投げっ放しになる
のではなくて、シティプロモーション室から、どんな格好で作っていくかというのは、お聞
きしながら、一緒に進めていきたいなというふうに思います。

そして高砂学についてなんですけれども、もちろん副会長がおっしゃるように、高砂市の偉
人、工楽さんであるとか、山片蟠桃さんであるとか、たくさんいらっしゃると思うんですけ
れども、過去には高砂学として講座編で実施させていただいたこともございますけれども、何
分ずっとボランティアとしてゼロ予算でやらせていただいた中で、事業がマンネリ化しないよ
うに、新しいことをちょっと探していきながら、やらせていただく中で、過去の偉人の講座の

内容、今うちが持っている情報だけではなくって、例えばこれもシティプロモーション室であるとか、文化財、生涯学習さんがお持ちの情報であるとか、既存の情報を使いながら、新たな高砂学っていうのを考えていけたらなというふうに思ってます。

○副会長

もちろんゼロ予算という話はね、決まってるんだけど、文化にある程度お金がかかるということもあってゼロ予算じゃない高砂学の新たな構築みたいだね、があればいいかなと思うんですけど、ゼロ予算はいくらなんでもこの時代も含めて考えていったときに、かなり難しいような、無理があるような気がしますけどね。

○会長

はい。

ありがとうございました。

高砂学については、前回、去年の文化振興審議会でも、先生からもご指摘があった部分でございます。

大事な、おそらく、文化発信の重要な点だというふうに私も理解をしておりますので、ゼロ予算っていうのは、おそらくその人件費とかをどういう風に勘定するかによると思うんです。

要するに事業としては、どうしてもそのための人件費等は当然かかっていると思うんですが、やはり資料を揃えたり、様々な事業に関わる経費必要だと思いますし、より多くの方に知っていただくための、まさに発信もこれから必要だと思いますので、先ほどのご意見、非常に貴重なご意見だと思いますので、予算につきましても、これからご検討いただきたい。

もうこれ書かれてるものですから、いきなり後に補正予算をつけなきゃいけないかもしれませんが、例えば、今、他の事業の中で、使えるようなものを使っていくとかですね、検討いただければと思います。

他にいかがでしょうか。

何かご質問とか、例年ちょっと出てたことだと思うんですけど、22番以降のポスターですねこれも毎年ポスターの話が出て、あちこちでいろんなポスターやってるけど、うちもうちょっとこれしっかり統一したらどうか或いは集めるんだったら、もう少し公開したらどうっていう話がよく出てくる話で、今年もおそらくこれポスターがずっと出てるので。

○委員

お尋ねしたいんですけども防火ポスターの、募集が少なかったんですよね。

うん。

次はこれ増やすようにするというようなことが文言で書いてあるんですけど、具体的にはどういうことをお考えでしょうか。

○会長

はい。どうでしょうか。

これ、担当者が消防本部なので、おそらく今ここで具体的なことは答えられるかどうかわかりませんが、もしご承知であればお願いいたします。

○事務局

消防本部の方には具体的に増やすにはというのは、確認できておりませんで、例えば、この度の議事、議事録に追加して確認した内容を皆さんにご報告申し上げるであるとか、第2回で、お伝えするであるとか、そういった方向でしか、すいませんちょっと課としては情報掴んでおりませんので。

○委員

この話を前も僕この会でさせていただいたと思うんですけど、現場におったものとして、言わしていただくと、ポスターっていうのは非常に描かせにくいんですよね。物理的な問題として授業数が少ない。だからなかなかそれを扱っていく時間っていうのがないわけですよね。

そういうのにすごく力を入れてらっしゃる学校もあります。

実際に、ポスターで子供たちに成績とらしてやろうっていうんで、それをメインに据えて授業をされてる先生もいらっしゃるんですけども、それにかかるとなかなか他のものができなくて、僕なんかできるだけ子供たちに、いろんなことをさせてやりたいなと思って考えるんで。できましたらね、子供たちがポスターを、応募しやすい環境を作ってやって欲しいんですよ。

つまり、ただ、防火のポスター書きなさいって、バーンと出したらこども達困ります。

僕一番現場にいた時に嫌だったのが、山火事防止のポスター、一番多いんですよ、なぜか山描いて火描いたポスターだとか、わかるでしょ。うん。

それよりも、ポスターで子供に何かを考えさせたいんだったら、考えられるような何か資料を、いただきたい。

こういうのが今防火で大事なんだよ。選挙でこんなのが大事なんだよ。

緑化だったらこういうことが大事なんだよというような、子供たちにこっちが指導しやすいような資料をいただくと嬉しい。

これも随分何十年か前だったと思うんですけど、下水道のポスターの募集を市の方から言ってこられたことがあるんです。

その時にね、上水道のことは子供たちも知ってる、でもなかなか下水道の働きってどんなだろう。頭でわかってても具体的にはわかんない。その時に、市の下水道はこんなことしてるんだよっていうのをビデオにさせていただいたことがあるんですよ。

それ授業で使うと、子供たちはやっぱりいろいろ考えてくれるんですよ。随分助かったなと思って、自分も勉強になるんです。子供たちが書きやすい環境、指導する側が指導しやすい環境っていうものを、作っていただけたら嬉しいんですけどね。

○会長

ありがとうございました。

実は昨年も、ポスターについては委員がおっしゃっていただいて、先ほどおっしゃった趣旨のようなことも指摘いただいて、今、これだけのポスターを小中学校でお願いしてるに当たりまして、その意義であるとかをちゃんと理解をして描いていただけるような方向性は、これは消防だけでなく、土木総務、道路公園課、ほかすべての課にも関わる話だと思いますので、これはフィードバックしていただきたいと思います。

よろしく願いしたいです。

○委員

委員にお伺いしたいんですけども、このポスター、防災とか、お花とかいろいろありますが、この応募数の違いは何なのでしょう。

○委員

何だろうね。

子供の興味か、子どもたちにしてみても描きやすいポスターと、描きにくいポスターあるじゃない。だから、花と緑だったらパッと見たらお花を描けばいいんだみたいな。

さっき言ったみたいに、どうなのか。

山火事が多くてね、僕現場にいる時に困ったんですよ。

もうほとんどが山と火で、うん。だから、やっぱりその子供たちの興味が一番あれなのかな。それか、今、絵を描くとかっていう、ないじゃないですか。

○委員

今世界的に温暖化でね、世界中で山火事がすごいことになってますけど、その学校の先生もおっしゃいました興味が湧くこと、ただ描きなさいじゃなくって、私ども子育ての時に夏休みの宿題でポスターと貯金箱作ってこいというね、その宿題。

また？みたいなところもあったんですけど、だから、ただ小学校に、防災のポスター、人数を増やせっていうだけでなく、本当にどういうことを目的としてポスターを募ってるのか、その辺をちょっと市の方にお聞きしたいんですけどもね。

○会長

はい。

多分ポスターと行政依存は違うと思うんですが、それからおそらく、小学校の現場中学校の結構大変忙しくておそらく先生方がそれを児童に一つ一つ説明するのはなかなか難しいし、それに趣旨が伝わるようにしないといけないっていうのがあると思う。

そのあたりどうでしょうか。

今、例えば、今担当課がおられるわけじゃないので具体的にどうだと言にくいと思うんですけども、何かお持ちの情報で、委員への答えができれば、募集難しかったら担当課の中でどういうふうにアプローチするかって、もしかしたら、単に学校へポスター募集の要項送っただ

けじゃないかなという気もしないでもないんで。

○学校教育室長

学校教育室長です。

現場においては本当に先ほどおっしゃったように、まず宿題としておりてきたものを、本当に会長のおっしゃる通りこの書類を見ながら、子供たちに配布して、どんな作品を描かせるかまで、この資料がない、子どもたちは夏休み等で、市から募集があるので、ここから自分たちで選んで書きましょうねというような指導になってしまっている現状というのはあります。

小学校においては担任の先生がされていますし、中学校では、美術の先生が中心にはなっているんですが、そのような状況で、なかなか他の宿題もある中で、どれぐらい子供たちがポスター、作文等に力を入れているのかなという部分があるところで、現場としても同じです。

それから、選挙の方が、Aになってますよね。

小学生とか、高校まで通じてるのか、小中高まで、ちょっと素人的に考えると、防災の方が書きやすいというか、いやこれは描かした方がいいのかな。

もちろん選挙も大事なんですけど、小学生に対して、いやでも、結果としては、小学生が多いんですかね、選挙啓発が。

だから、目的意識を持って、ポスターやそこら辺を描くようにしようとするならば、目的意識を持ってご指導いただけたらなと思うんですけども、このたび選挙でもうとにかく東京の方なんか張り出すお金さえ用意したら、どんどん貼り出せるという状況になってきそう、そういうことも子供たち、知るのも大事かもしれませんが、本当に防火とか防災の方もね、子供たちが自然に描いてくれるような方向で持っていってくださったらいいと思います。

○会長

どうもありがとうございました。

おっしゃるように、学校の宿題だけじゃなくってやはり指導に関わるようなところで、市への愛着であったりとか、地元への思いというものを育むようなことができれば、それはこの基本方針にも関わる話でございますし、そもそもが、地域における持続可能性もかかる話でございますので、学校現場で忙しいことがよくあって、先ほどおっしゃったような現状だと思いますが、だからこそ、各担当部局においてはしっかりとその辺りを、僕達に伝わるような方策は考えて欲しいということは、委員の皆様のご意見だと思います。

他の部分よろしいでしょうかと。

○副会長

はい。

2点あるんですけども、この市制 70 周年ということで高砂高校のジャズバンドに、市制 70 周年記念式典に出ていただいて、そして私は高砂高校を、日本でも初めてかなと思うけど、高校のジャズバンドと高校の部活動を高砂市の観光ボランティアを認定してね、それで、高砂市で表彰してもらえたらうれしいかなって思ったんですけど、市としても全国に先駆けてね、そういう発信のやり方があるかなと思ったんですけど観光ビューローの方で検討してくれて、そういう部活動がたくさん出てきたらどうするかということもあったが、実際私は高砂に 35 年ほど住んでるわけで、独自の部として続いているのは、高砂高校ジャズバンドだけですよ。

例えば野球で強かったりする場所、私社高校にいましたから、強かったんですよ。

それは森脇さんという指導者が優秀だといってました。部活動がその顧問が変わっても継続的に高砂を名物として、またぜひ観光大使としてやれたら嬉しいかなと、理事長には話させてもらってるんですけど、私の方も考えていただけたらなと思ってますけど。

もう一つは、皆さんにお礼を言いたいことなんですけど、ホールコンサートもずっと続けてるんですけども、7月には 125 人くらい来られました。6月には 135 人ぐらい、もう完全にもう 100 人を超えるような状態でやってきてます。

おそらく皆さんのおかげだと思いますし、高砂の広報にも載るし、常連の方もいると聞いているんですけども、また、先ほども市長と話し合ったんですけども、このたび、ホールに電子ピアノを導入していただいて、モリスホールディングス株式会社様から寄贈していただいたってことなんですけども、これは非常にありがたいことだというふうに思ってます。

今までエレクトーンを持ってきたりしていました。

ここにおられる 3 人の方にも全員ホールコンサートに出演していただいたんですけども、そ

ういう意味ではその高砂市役所のホールは、あいぽっとも合わせて、いい形で展開できてるかなと思います。これはお礼です、ありがとうございました。以上です。

○会長

ありがとうございました。

今、基本目標で言うならば、例えば、検証に関しましては、文化芸術活動の活性化を応援しますといったところだったりとか、先ほど報告があったのであれば、文化振興のための環境を作りますということでのいわゆる基本方針に基づく、様々な観点からご指摘いただいたというふうに思っております。

まずちょっとジャズバンドをどういうふうに検証するのか私もちょっとわからないんですが、何か今、観光大使はお考えなんですかね。

○副会長

はい。これは観光協会さんもいるんですけども、今までB4の、竜山石で、表彰状を作ったことはないようなので、高砂高校の校長もB4が欲しいと言いましたけど、そういう形で観光大使に任命して、高砂高校のジャズバンドをこれからどんどん繁栄していったら、高砂も一つ有名になるかなと思いました。

○会長

高砂市が持っている資産をどういうふうに生かしていくのかという中の、ご意見というふうにご理解いただいて、対応できるところは答えていただきたいというふうに思います。

他よろしければもし先ほどの事前の質問に限らず、今日ご報告あった内容ですとか、或いは事前に報告いただいて例えば評価が、Aなの？とかCだろうか？という事務局からも、Cになってますが、という話が出ておりましたけどもそういったところの評価の決定でも結構でございますので、何かもし、この事業結果を見られてご質問があればお願いしたいと思います。

これ先ほど言ったように、新しい第二次振興計画の最初の事業でございますので、この評価が結構大事だなというふうに思っております。

ご質問、ご意見あればしたいと思いますね。

○委員

すいません。

質問、意見の20項目、私の方から出させていただいてるんですけども、ちょっとやっぱり具体的にわからないんですね、ダーッとこれだけの資料作っていただくの本当にご苦労さまだと思うんですけど。

例えば、141-02。高砂子ども狂言ワークショップ、実質していただいたということで、参加者594人っていうことなんですけれども、これ結構続けてらっしゃいますよね。

その成果とか、子供たちの反応とか、そのあたりがちょっとわからない。それから、俳句とか短歌とかそういうこともやっていただいているみたいなんですけれども、どういうものを、私が知らないだけなんでしょう、勉強不足なんでしょうけど、どういうものを作っていて、指導している方がどういうふうにな、評価してるのかとか。

実際の動き、やりましたようやってますよ、だけでなくって、そこらあたり、わかるように、一般市民の方よりか私たち、わかろうとしてる方が何か思ってるんですけど、わらべ歌とかその地域に残る歌なんかはこう明記していただきましたので、へえという感じで実際その場に行ってみないと、どんな曲なのかというのはわからないと思うんですけどもね、そのあたり、市民の方がボランティアで、例えば部活のボランティアに行かれてる指導に行かれてるというふうに書いてありますけど、具体的にどこの学校にどういう人たちが行って、どういうふう子どもたちが伸びてきてるのか、なんかそんなあたりが全然ちょっとわからないので。

わかるように、教えていただけたらありがたいんですけど、

○会長

ありがとうございました。

この評価についても何度か審議会の取り上げさせていただいて一つはこの、インプット型って言って、つまり例えば5回高砂学をしなければいけません、したかしなかったかを評価するというやつをインプット型、それから実際にやりましたその結果、何人の人が集まりました。

これをアウトプット型で、もう一つがどういう成果があったのか、という考え方なんですけども、例えば、先ほどおっしゃっていただいたような、こども狂言ワークショップですと、ワ

ークショップを実施するって書いてある 14 回の目標があつて、14 回実施すれば、まずインプットとしては OK です。そしてアウトプットで 594 人参加しました。

例えば目標が 1000 人なのに 594 人なら 6 割しか達成していないということになります。

そこまでは多分、書きやすい評価なんですけど、さらにおっしゃっていただいた、これによって、子供たちが高砂のことをよくわかった、本当に素晴らしいものがあることが理解されたというふうな、子供たちが増えたとなればこれはまさに成果、アウトプットと言われることになるんですけども、おそらくこれはどういう評価をしますかっていうことについて、統一されたことがあまりないですね。

だから、文化の方針として先ほどここに基本方針があるので、この中のこの項目であれば、例えばこの方向であれば基本目標 1 の文化に親しむ機会を作りますという観点の中で、評価をするならば、594 人の子供たちが聞いてくれてそれによって高砂もよくわかったということなんですけど、これで、本来だったら文化施策として評価しますっていうふうになっている、これ政策ロジックというんですけども、そういったものがそれぞれあるわけじゃないですね。

だから、やはり委員のご質問になってらっしゃると思うんですけども、せめてですね、どうでしょう。文化スポーツが所管されている事業については、少なくとも政策ロジックに基づいて作られてると思うので、委員がおっしゃったことについてお答えいただければと思う。

○事務局

はい。狂言ワークショップについては、どういった効果あるかっていうのはここだけではなくて、もちろん私ども予算をつけている事業なので、決算の時にもこういった効果がどうやったのかとかいう質問がもちろん出てきます。その時にもお答えさせていただくんですけども、私もこれを実際現場で見させていただいて、子供たちは非常に喜んでることは確かです。

非常に喜んでますので、もちろんその子供たちだけではなくて、その施設の先生方、或いは、その子供たちが、ワークショップをして、お家に帰って、こんなことがあったよ、なんていうのは、お父さんお母さんには報告するでしょうし、そのご意見まで、私どものアンケートで吸い上げたわけではございませんけれども、少なくともアンケートの中では、実施させていただいたその園の先生方からは毎年同じような意見になるんですけども、非常によかったと、続けて欲しいというようなご意見を毎年ちょうだいしてございます。

その中で、そうですね。例えば、子供たちが、その効果をどこで検証するのかっていうのは非常に難しい話だとは思いますが、ここの評価の説明にもちょっと書かせていただいた通り、能や狂言っていう、本物の文化に触れる機会っていうのを提供することっていうのが、当初この目的でございまして、その目的に対して、この予算、これだけのお金突っ込んで、どれだけの効果があるんだっていうのは、先ほどから申し上げた通り、ちょっと難しい話にはなるんですけども、そこで文化に触れる機会を作った上で、会長がおっしゃるように、何か他の施策に繋がるような、っていうのは、もちろん子供たちが、おうちに帰って、例えば、お父さんお母さんこんな謡曲高砂を、例えば能のこんな、いろはの舞台っていうのを見てきたよっていうのをお伝えする中で、謡曲高砂っていうの初めてお父さんお母さんが知る機会に繋がっていく、そこから高砂の PR にも繋がっていく文化顕彰に繋がるっていうことも、考えられるのかなというふうに、例えば数字だけを見る、A 評価ではなくてそういうのも含めた A 評価っていうふうにさせていただいたところでございます。

よろしいでしょうか。

○事務局

内容としていたしましては謡曲高砂を子供達みんな、たかさごや、このうらぶねに帆をあげて～、と復唱するような感じで子供たちと一緒に謡う、それも至芸の会っていうプロの方の声に合わせて歌うので子供たち非常に興奮しながら、楽しく歌っています。

いろはという、今回は狂言も見たんなんですけど、謡曲高砂の方なんですけど例年は謡曲を謡って、子供たちにもやってもらって、というだけだったんですけど、今回から能の絵本高砂っていう永田友香さんという方が絵を描いてくださった絵本ができましたので、狂言ワークショップでもこの絵本を読んで、子どもたちにわかりやすいようなやさしい文章を使って、ともなりさんという方がいたんだな、松の妖精さんがいたんだなっていうふうにご説明をしてもらいました。子供たちも、絵本を見て、理解が深まったと思います。

そんなふうに狂言ワークショップも毎年同じことをしているようで、ブラッシュアップした

ようなところも今年はありましたので、そういった内容を具体的に説明させていただきました。

○会長

ありがとうございました。

いずれにしても結局、この指標を見ていただくとわかるんですけども、基本的にこの成果指標としては直接鑑賞した文化芸術がないなかで、どれだけ子供たちの印象を深く与えたかどうかっていうのが大事で、だから回数だけではなくって、工夫されてるっていうのはそういうふうな意味で工夫して、子供たちが高砂のことを聞いた、ちゃんと体験したんだなっていうことが反映されると、この数字が上がってくるので、そういう工夫がされてるということなんです。なかなか本当はそういうそれをどういう評価で、先ほどヒアリングおっしゃったような評価をちゃんとトピックでやってるかっていうとそこまではできてないので、体感的にAをつけられたというのが答えだということだと思います。

いいですか。

○委員

はい。

○会長

ありがとうございます。

○委員

ちょっと私事なんですけれども、ずっと合唱をなさっておられる市民の方で、非常にこちら驚かされたんですけれども、私どもが作りしました交響詩高砂、そこに、この高砂の謡いの文章がある言葉を使った、メロディーが流れてくる部分がございます。

そのエネルギーがとても気に入って、以前からずっとこの謡曲高砂の言葉自体が大好きでいらっちゃって、謡曲高砂ももちろん、謡いの方を気に入ってるんですけども、それが、自分が趣味としてやってる、合唱が五線の音符で、音楽として、洋楽として流れてきてるそれもその歌を歌わせて欲しいと、著作権の関係はと、まあそこまで登録はしてませんのでね、どうぞお使いくださいと申しますけれども、そういうものもできて、すごく喜んでるんだということでお越しいただいた方があったんです。

はい。何か市民の方々、謡曲高砂を謡った、謡曲って本格的に歌おうと思ったらねこれまた大変で、能の先生もそう簡単なものではないと怒られるかも知りませんが、小さい頃からそうやって親しんでいくということは非常にいいことだと思います。

ありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。

そういうことは本当に謡曲高砂の継承という施策の方針でも一致するところでございますので、ご報告どうもありがとうございました。

ほかご質問とかありましたら、どうぞ。

○委員

どこでお話したらいいのかなと思いながらしてたんですけど関連があるとしたら 50 ページの、412—14、それから 412—16。それから、52 ページの 421—13 かなと思うんですけど、山陽電鉄の駅前にちちりってありますよね。観光案内所。あそこ開めてるんですか。クローズドがかかっている時が多いんですけど、何か聞いたところでは土日しか開けてないとかっていうお話を聞いたのですが。

○委員

ちちりなんですけど、今現在おっしゃられるように、以前は毎日開いてる時っていうのは、どなたか見る方が、滞在していただいて対応という形をとってたんですけども、予算面で人件費を捻出するのが苦しくなってきたっていうところで、無人で開けっ放しにしておくのも、物騒だということもあったので、人を置いて開け閉めっていう形を今現在とらせていただいております。

ですので大きく言えば、全体的なビューローを運営していく中での予算、人件費の削減で、あそこを開けたり閉めたりっていう形を今現在とらせていただいております。

○委員

ちょっと私の知り合いで高砂方面にやってきて、どこ行こうかなどいうのがあるのかなっ

ていうのを知ろうと思って行っただけで閉まってた。これ他にも何人か聞いたんですよ。駅前の観光案内所って空いてるのが普通ですよ。玄関口として。閉まってるのはどうなのかなっていう。この評価がどうですか。ちちりでなんか販売するとかでA評価になってるんですけど、そのあたりがどうなのかなっていう。

山陽電車降りて、さあこれから高砂見に行くって言った時に、せっかく案内所があるのに閉まってるなっていうのは、やっぱり来た人に対しても失礼かなと。そちらの事情はわかりましたけど。けど、そこを何とかしていただけないかなと思うわけ。

○委員

クローズにするにあたって、毎日人がいた時に何人利用していただいているのかっていう、来場者数っていうのも、統計をとらせていただいています。平日の、そういう時ってほとんど利用されてる方がいないっていう、来場者数が少ないっていうところもありまして、そこは経費の置いておく方がいいのか悪いのかっていう、そういうのも、本当に予算面でそういう判断を今してしまっておるんですけども、本来であれば、おっしゃる通り、高砂町の玄関口である高砂の駅前の観光案内所っていうことで、開けておくことがベストだとは思いますが、その辺は、ビューローの中でも、意見のやりとりはさせていただいて、今は費用面でという意味合いで、少し足を延ばしていただいて、工楽松右衛門住宅のところに、結びんの方の観光案内所へ、ちょっと距離は遠いんですけども、足を運んでいただければという形をとらせていただいております。

○会長

ありがとうございます。

先ほどおっしゃったように、お金の問題で開けられないというのは、おっしゃる通りだろうというふうに思います。

増やしてくれっていうのは簡単なんですけども、なかなか厳しい中で、そういうことが難しい中でやはり工夫していかなきゃいけないと思います。

私もちちりがどういう役割で、大きさがどれくらいで、例えば他の役割を高めることができれば他の予算と組み合わせることができるかと、いろいろとわからないので今ここで、こうしたらいいとは言えないんですけども、いずれにしましても、委員おっしゃるように、このような文化を活用してまちづくりであるとか、地域の活性化っていうのも今、大きな方針でございますので、この中にありますように、松右衛門帆布ですとか、いわゆる高砂市を持っている資源をしっかりとPRして、それに応じて、観光客だけではなくて、商品の販売だったり、いわゆる観光で結びつけるというような、そういう関係人口をふやしていく上において非常に重要だろうと思いますので、予算を増やすという方向以外の方法を持ってですね、ビューローの方でも少し考えていただいて、例えばおっしゃる通り、有料の商品っていうところを置くのが難しければ、無料のパンフレットを置くとかね。そういった工夫はまたお考えいただいて、両方移動してお客が少ない時に来てくれた方に対してPRをできるようにするとかっていうのは、これちょっと今ここでこうしなさいと言えないので、ちょっとお考えいただくということでしょうか。

○委員

中の事情はそれでよくわかったんですけど、やっぱり困ってらっしゃる方がいるっていうことは、高砂市にとってもマイナスだと思うんですよ。しょっちゅうそんなにたくさん人が来るわけじゃないんですけど、それを全くゼロにしてしまうというのもいかがなものかだと思います。その辺りのことを考えながら、せっかくあれだけのものを作ってるんですから。工楽松右衛門住宅の方へっていうのは何か案内が出てくるのか。

案内といいますのは、今おっしゃったそのこ閉めてるけど、工楽松右衛門住宅の方へ来ていただいたらご案内しますみたいなことは出てくるのかな。

○委員

ちょっとすいません。

現在どういう表記をしているのかっていうのはちょっと把握してない。

○委員

ちょっとないように思いましたから。

○委員

わかりました。

○委員

駄目だったら、何か向こうに案内して、向こうで対応をするというような、でもできると思うんですね。僕としてはせつかくあそこをPRしていく一つの拠点だと思ってるんで、そういうのは大事にしていけないと、いけないなと思いますので、また考えていただければと思います。

○委員

はい。わかりました。伝えておきます。

○会長

ありがとうございます。

他よろしいでしょうか大体皆様

○委員

教員の先生方の仕事の量が、もう本当にハードで、部活数に関しては外部からお願いするか、ボランティアでっていうことになってきていますけれども、今、小学中学校、高砂市の状況というのはどういう感じなんでしょうか。

○会長

どういう、というのは、例えばそれは外部の先生以外の方が顧問に入られてるとかそういうふうな状況。

○委員

一般の方々と学校関係、子供たちとの交流

○会長

いかがでしょうか。

ちょっと私実は播磨町の社会教育委員やってまして、あそこはもう完全にそういう方向なんですね。播磨町長からもその方針を出してるんで、要するにスポーツの指導が、学校の先生じゃなくて、一般市民からということになってるんですけどもそれで結構一生懸命進めてらっしゃるんですが高砂の場合はどうでしょうか。

○学校教育室長

ご質問いただきました。中学校部活動についてなんですが、部活を国の方も今、地域移行という形を進めなさいということで、子どもたちがやりたいことを選べるように合わせて、先生方の働き方改革を含めてということで、まず土日で、先生方から、部活動を放していこうというのが今、話されてる、一般的には言われてるところでして、先進的にやるところはもう、平日も含めて、神戸市なんかはされてますし、会長がおっしゃってる播磨町なんかも、そういうふうな動きがあります。

ただ本当に地域によつての動きの速さ遅さというのはどうしても、地域に返すとなる時に受け皿という状況もありますので、そのあたりの整備というのに今、高砂市においても、ちょっと準備を進めているところです。

その中で、今、部活動を地域移行に入るまでにということで、中学校の方には専門的な指導者ということで、ボランティアではないんですが、招聘させていただいております。

現状としましては基本的には各学校も運動部、それと文化部というところで入れさせていただいてるんですが、文化部におきましてはやはり茶道、華道、書道、このあたりで、本当に専門的な指導をしていただいておりますので、子供たちにとってはすごく身になるというか、力がつく指導をしていただいております。茶華道におきましても、作法から、本当に本格的に専門的なことをやっていただいております。

運動におきましても、中学校の教師は本当に着任しますと、この部門でね、みたいな専門ではない部活動を持つ機会があります。

それっていうのは、先生にとっても、子供たちにとっても、本当にその形が正しいのかというところを考えると、こちらも、不幸ではないかなというところがありますので、本当に、微々たるものですが各学校1名から2名、学校の困り感で、入れさせていただいております。

例えば、剣道部顧問がいない、でも部員がいる、その学校は剣道に力入れて、剣道で外部指導者を入れたりであるとか、水泳部があるんだけど、指導者がなくなって、退職でいなくなったので、そこで、外部指導者というようなところで、何とかさせてはいただいております、

方向としましては、やはり教師の負担軽減も含めまして土日の地域移行っていうのを今後検討していきたいなという考えでおりますが、今本当に始まったところですので、そういうところには、検証しているところでございます。

○委員

まだそれほど盛んではないという現状でしょうか。それこそ一昔二昔前、高砂ではもう本当にスポーツバリアリの先生方がいらっしゃって、怖い先生方の元、生徒たちもすばらしい人材が出てきてましたし、音楽の方も頑張ってくれと。もともと合唱なんかはちょっと西播に比べて東播は、盛んではないんですけども吹奏楽の方はね、東播が盛んでしたけど、今本当にその部活動を行われていない形になってしまってるので、一応国の呼びかけでいうことでなんですけど、現状の動きはどうかかなと思ひまして、はい。

○学校教育室長

これからというところですので部員数も減ってきてまして、合同チームとか、そういうものも増えてきつつあるのが、今の中学校の部活動の現状かなと思います。

○委員

はい。

ありがとうございます。高校にしても何かいうと高砂高校のジャズバンド、いいんですけど、高砂はそこばかり出るんですね。高砂高校だけじゃない。高校生は。私いつも思うんですけど、他の高校はどうなってるのかと、これは県教委の方なんでしょうけど、他の高校の盛んなところはないんですかって言ったらいいぐらい高砂高校ばかり出てくるんですね。その辺りはどなたにお聞きすればよろしいでしょうか。

○会長

こちらの方向性を示させていただきますと、今、部活動の教育働き方改革、先ほど専門性の高さということで地域とどうしていくのがあると。

そういった中で高校側の希望とそれから地域の資源とかとちゃんとマッチングすることによって、新しいすぐれた活動というのが生まれるかもしれない。

そういった方法をやはりこれから考えて欲しいということで、今、ジャズはずっと優れた指導者がおられて、すごい成果が出たわけですけども、これからはそれ以外の方法として地域でおられる指導者の方が、高校へ指導することによって新しい高校の文化活動、或いはスポーツ活動というのが生まれるんじゃないか。

もちろんその時点でおっしゃっていただけると。

○委員

それで、松陽高校の方はね、葬会さんにもう本当にご尽力いただきまして、生徒会の方が頑張っているところ、高砂市内でも活動してくれてるんですね。ほか、高砂南高校もあるはずだと思うんですよ。私存じ上げないんですけど、何か動きをご存知の方また教えていただきたいと思いますが、はい。だからその若い子たちが高校の場合は特にいろんなところから来てますから、あの高砂を趣味になると限ってないんですけども、やっぱり高砂に来てて、高砂を知ってもらって、高砂で活動してもらえたら嬉しいなというふうには若い子たちもやっぱり力あるんですけど、最近の若い子たちやっぱおとなしい、昔みたいに、ガンガンいくで！みたいな子たちは少なくなってきましたのでね。

なんかその辺りもうちょっとパワーのある子たちが育って欲しいなと思っております。

ありがとうございました。

○会長

どうもありがとうございました。

それと時間もありますので一旦この議論をおかせていただきまして、引き続き6年度の事業計画についてのご説明を事務局の方から賜りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

令和6年度実施計画について、主なものをご説明いたします。

令和6年度は、資料2の実施計画のとおり進めてまいります。

2ページ、111-23、市役所ロビーコンサートの開催でございますが、今年度からは広く一般から出演者を公募し開催しております。現時点で、4月15日、4月30日、6月3日、7月

29日に開催しました。出演者の方々からは、他市の市役所ロビーコンサートと比べて、出演時間が長いと、ありがたいというお声をいただいております。次回は8月13日にソプラノとピアノの演奏を予定しております。

また、先日、7月30日にモリスホールディングス株式会社様より、高砂市役所分庁舎ロビーにピアノと音響機器を寄贈いただきました。寄贈式も開催しまして報道もでしたが、今後はこのピアノを使ってロビーコンサートを開催していきます。

次に、2ページ、112-05番、文化会館の施設整備でございます。指定管理者による小修繕に加え、文化会館東館（旧保健センター）非常用発電機及び高圧機器の改修を行います。

次に、3ページ、112-07、ふれあいの祭典ひょうご民俗芸能祭でございます。

9月8日に高砂市文化会館じょうとんばホールにて、ひょうご民俗芸能祭 in 高砂を開催予定でございます。当日は高砂市から4団体、県内各地域から5団体が出演予定です。淡路の人形浄瑠璃や須磨琴、農村歌舞伎など、地域文化の魅力があふれる芸能祭を開催予定です。また、今年度は市制70周年記念として、各課で様々な事業を開催しております。以上、主だった項目のみ説明させていただきましたが、再掲も含めた全事業数350項目、令和5年度事業実績項目から、新規項目は5項目増え、7項目が削除されまして、再掲も含めた全項目350項目となっております。

○会長

どうもありがとうございました。今これまだ、令和6年度の事業ですからもうすでに終わっている事業もあるので、そこはなかなかお願いすることは難しいかもしれませんが、これから開催されるような事業でございますとか、イベントなどですね、こういった工夫ができるんじゃないかっていう、こういう前向きなご意見を賜りたいというふうに思っております。

いかがでございましょうか。

お気づきのところとか、例えば先ほどの新規のものが、5件ですね。それから廃止のものが7件、先ほど出てきた高砂観月能、これはとりあえず継続だけけどその後は廃止っていうおそらく、今年したらもうやらないっていうことかなと僕は思いながら、例えばそういうふうなご質問、もあるかと思いませんか。

○事務局

すいません。補足でご説明申し上げます。新規の5項目というようなところですけども、先ほどご説明申し上げました、ひょうご民俗芸能祭と、高砂市役所でのロビンコンサートの件、231-09、412-20、市政要覧の刊行ですね、これは今年度70周年の記念に合わせて、その事業やるのっていうことで6年度のみ、新規で上げさせていただいておって、この事業は単年の事業です。そして、412-21番、出前講座でございますけれども、これは、この第二次の基本方針策定されたときに5年度には載せておくべきものであったと思うんです。6年度で新たにこれは、出前講座は、この後に直しておくべきかなということで追加させていただいた項目です。

で、削除された7項目ですね、こちらについては、令和5年度の実績のところの事業番号で言いますと、122-02、或いは122-07。そういったところの中央公民館または公民館の、公民館事業ですね、こちら公民館の廃止ということで、次に地域交流センターとして、この事業引き継げるかがまだ不確定で、あえて今計画には出さないでというお話がありまして、あえてここは計画を、項目にあげず、一旦は削除という形をとらせていただいております。

○会長

ありがとうございます。削除する理由というのは、この基本方針に関わるということではないんですね。新規についてもこの基本方針に沿って新たになってというのが、先ほど挙げてこられた、適宜説明しますとは書いてますけども、公民館は大きな問題なので、これは別に文化スポーツ課で廃止したわけじゃなくて、いわゆる公共施設マネジメントの中での見直しなので、その部分で影響を受けたということで、でございます。

はい。

ありがとうございました。

○副会長

これ今8月に入っているんですけども、公民館から地域交流センターに移っていったその事業継続に関しては、検討できる期間があったのではないかという気はするが、どうですか。

○会長

いかがでしょうか。

公民館は教育委員会の所管であると思うんです。今教育委員会ですね、文化会館になると、市長部局で、多分部局の変更があると思うんですが、よろしくお願いします。

○教育推進室長

教育推進室です。公民館は今年の3月ですべて廃止になり、それ以降は地域交流センターになっているんですが、管轄も市民部に移ってるんですけど、今まで公民館で行ってた活動団体、それぞれの公民館で、文化的、スポーツ系、いろいろあったんですがそれは教育委員会で社会教育として、団体の登録も引き継いでしているところではあるので、活動はできてるんですけども、市民部の方から聞いているのは、公民館まつりが、今まで秋に開催されてたんですが、それについては、地域交流センターで、それぞれの中で、運営協議会というものを立ち上げて話をしていきながら、どのように開催するかというのは、検討するというような状況だというふうに聞いてますので、それぞれで今、1年目なので、どこまで進めるかはこちらでも把握はできてないんですけども、そういったことは行われていくのではないかと考えております。

○委員

4月以降に、伊保の地域交流センター、あそこ公民館ってまだ書いてあったんです。書き換えられましたか？

○教育推進室長

そこまでの把握はできてないんですが、おそらくそういった、表示の方は変更していったはずですけども、すいません今確認しておりません。

○委員

訪れてまだ公民館か、地域交流センターにするならすればいいのにと。

○教育推進室長

その点についてはこちらの方で確認してますので。

○会長

私から少し、私の方も関心があるんでお聞きするんですが、233—11、或いは12、13といった国際事業に関することですけども、例えば、12、11の国際交流サロン、これは予算もつけてないので開催実施は難しいのかもしれないんですけども、それに対して予算はついてないのは、自己負担の部分でされてるのか、国際交流協会への補助金でやられるとかちょっとわからないんですが、日本語教室については拡充されるということで、このあたりの考え方ですよ、外国籍あるいは外国人に対する、どのような関わりを市としてされていこうかっていうところですね。今までは交流を中心でやってきたが、今外国人市民の数が増えてくるので、それだけでは済まなくなってきた、生活についてももっとやっていかないとけないというような考えかなというふうに思いながら、拝見してたんですけど、何かもし文化スポーツ課などで、もし方針としてあれば、教えていただければ。

○事務局

今年度、市から国際交流協会に、日本語教育、日本語教室の拡充という形で新たに補助を行って、生活する上で必要な日本語を強化するような形を進めているところです。

○委員

国際交流の方に出入りさせてもらってるんですけど、日本語教室で教えるには日本語教師の資格を持っていないと駄目なんですけど、先生プラスそのサポートをするという、それを昨年度から始められています。サポートをするためにはどうしたらいいかという講習会のなんかも開かれて、サポートする方が何人もいらして私も行かしてもらってるんですけども、漢字が読みにくいとかそれから、就労で問題が起きるとか、困った時には、ここにいらっしゃいねというふうにして、国際交流協会の方が外国籍の方に対して、非常によくサポートされていると。

あとボーリング大会やBBQ大会など、ただ日本語勉強するだけでなく普段の生活から会話をしていこうということを、毎週日曜日の朝にされています。結構積極的に、日本語お上手な方もたくさんいらっしゃいますが、やはり子供は非常に早いですけど、親御さんでやっぱ読書に困ってらっしゃる方とか、学校からの通知がわからないとか、困られた時には、国際交流協会にと呼びかけていらっしゃいますけれども、どの程度浸透してるかわかりません。

また、太鼓の葬会の方にも来ていただいて、参加をしていただいたりとか、積極的に子供たちのグループを指導なさってる方々も参加してくださったりというふうな活動はされておられ

ます。

○会長

はい。どうもありがとうございました。

○委員

ちょっと聞いたんですけど。宮本武蔵さん、有名ですよ。それで、いつも杖道とか剣道、事あるごとに交流してるんですけども、あるお寺に宮本武蔵の像があるらしいんです。ご存知ですか。聞いた話なんですけど、そこに行ったら、お寺の住職さんが知らないっていう。私聞いてて、なんでって、宮本武蔵は高砂市の文化資源ですよ。そんな無関心でいいのかなと思って。あといつも思ってるんですけど、年に1回、杖道の二天一流の大会がありますよね。

そこで、悲しいかな、高砂市の見学者がいなかったっていうんですよ。だから、宮本武蔵を文化資源としての市が、こういうことではいけないんじゃないかなと思って、もう本当に述べたいのはそのお寺の住職さんが、2代目か3代目か知らないけど、その像があっても宮本武蔵に無関心っていうことが、私いつも疑問に思ってたんです。

はい。

○会長

ありがとうございました。

○副会長

ある人のおじいさんがね、宮本武蔵伊織顕彰会の会を作られていて、壇上さんという人が西光寺の住職で副会長をされてたんですけど、その西光寺の壇上さんが亡くなられて息子さんになられたんですけど、お寺を閉めてるような状態なんです。私が松陽学園で、高砂の宮本武蔵について90分講演はしたんですけども、西光寺に宮本武蔵と佐々木小次郎が戦った木刀のレプリカがあるんですよ。それをお借りしたいと思って何回も行っただけなんですけど、完全に閉められてしまってる。実はそこに宮本武蔵執筆のいろんなものがあるんですけども、それが出てない状態で、加古川の方が宮本武蔵伊織の会を継がれているんですけど、ああいう国宝に近いものが眠ってしまう、どっかへいってしまうとすごく怖いと言われてました。今そんな状態が起きてます。

○会長

お寺を閉めてるっていうのは

○副会長

後継者がいらっしゃるんですけど。

○委員

独特な理由があるんですよ。言い方悪いですけど、変わられた方、変な方。お寺の檀家さんも離れられてしまってる状態です。

○会長

文化庁の方で、いわゆる宗教で活動してないところをこれから整理しなきゃいけないっていう方針が出てますんで、先ほどおっしゃった文化財の流出とかは避けなきゃいけないんですけど、文化庁がこれからおそらく、今までなかなか宗教施設について立ち入ることができなかったんですけど、例の統一協会問題を通して、放っておけないということもあって、文化庁も整理する気なので、聞くとやはり、仏教のお寺も対象になりかねないといわれています。法人格をもってるかは知らないでなんとも言えないのですが、宗教法人についてもこれから整理されていく。さっき懸念されてた文化財をどうするかとか、そういったことだけじゃなくって、廃寺になってるところに実は大変なものが残ってて、そういうものが使えなくなるとか、これは別に高砂に限らないですけど、高砂は本当に歴史的なところであり重要なところだと思ったのと、宮本武蔵のお話で、知られてないんじゃないかというところで市の方として例えば、今顕彰会が取り上げてるが民間活動だけでなく、市として行政として何か関わったり、出身地は各節あるとは言ってもですね、有力説が播州ですから、行政として取り組んでおられるんでしょうか。

○事務局

二天一流に関しては、高砂学の中で講座を開いておりまして7月に二天会に来ていただいて、16人参加者があったんですけど、指導していただいて、喜んでいただいたということは毎年しております。

○会長

ありがとうございました。もうちょっと力入れてもいいのかなというのはもしかしたら、そういうご意見かもしれません。

よろしいですかねそういう形で、ほかご質問、ご意見あれば。

○委員

地域交流センターを利用させてもらってるものとして、今までは公民館まつりがあったけど、なくなったということで、何か各々のところでご意見をいただきましたと言いますが、そうすると、登録団体の人たちをまとめて、公民館まつりを催すとなると、横の繋がりがまったくない方が多いので、どんな方が登録団体になってらっしゃるかわからなかったり、それを今までは事務所で聞くことができたけれど、全くそれを聞くことができなくて、そこの中でも変わられてわからなかったり、運営するの大変だと思うのと、公民館や、地域交流センターの伊保や米田は割と活発ですけど、そうじゃないところは、まったく活動がなかったり、地域交流センターでしか活動してないコーラスの方がいらっしゃったり、いろんな方もいらっしゃるんですが、その方たちはそこでしか発表する場がないものですから、市の方からも横の繋がりを持っていけるように、助けていただきたいと思うのと、あと地域交流センターを予約するのに、空き状況を見ることができるんですが、やはりまだアナログで事前に会場でお金を払わないといけないような状況だと思うんですが、それはまだしばらくそういう状況でしょうか。

○会長

まず、ご意見として、地域交流センターの登録団体で横の繋がりが活性化するような方策を考えて欲しいという、これ重要だと思います。もう1点が、施設予約システムをどうされますかということなんですが。

○教育推進室長

教育推進室長です。公民館の登録団体が今地域交流センターで、生涯学習グループという形で、生涯学習課で登録していただいているんですが。地域交流センターを運営していくなかで、横の繋がりというのは非常に大事で、公民館まつりをどうしていくかといった繋がりがまず必要で、市民部の方とも情報の共有をして協議をしていきたいと思います。各公民館でも違いが出てきてると話も聞いておりまして、やはり課題ではあるのかなと感じています。施設の予約に関してですが、去年までは、社会教育施設ということで、利用していただくのに、ある一定の条件が必要だったんです。そういった公共施設の予約システムは、去年から入ってるんですけどもそこは、公民館を使わずに、まず登録をしてもらったような状況。

ちょっと状況は、地域交流センターに変わっておりますので、システムを開けると、地域交流センターっていうところは出て来てはおるんですが。

○委員

空き状況とかは見るができるんです。

○健康文化室長

予約はできないですか。

○委員

そうですね。確認はできるんです。

○会長

いずれはでも予約できるってことでよろしいんですか。

○健康文化室長

その辺りはこちらもわからないんですけど、おそらく担当は市民部になりますので、そちらの方で対応はしていくとは思いますが、でもそこまで考えておりません。申し訳ございません。

○会長

余談ですけど、これは本来、総務省の方が何か統一システムを作ってくれたら、それを双方が利用できれば、仕事が少ないんですけど、でも日本政府からそういうことすると、すごいお金取ったりするかもしれませんけどね。

余談ですが、いずれにしてもすぐには難しいということですので、もしこういうご質問があったときに、どこで受けてもらえるのですか。例えば先ほど、委員がおっしゃったようなご質問とか。多分こういうことで、どこに聞いていいかわからないこともあると思うんですがそのあたりはどこで聞けば、例えば市役所に電話して窓口で聞いたら教えてくれるもんなんですか。

○健康文化室長

確かに今回の場合は本日お聞きしましたので、我々の方で担当所長の方に伝えておきます。個人的にお聞きになりたい場合は、市役所に電話していただきたいんですけども、市民相談窓口の方に、お聞きいただければ。

○会長

よろず相談ができるところがあるわけですね。

○健康文化室長

そこにしていただければ、担当のものがそれに合致する部署の方に繋いでいただけたと思いますので、そこで確認をお願いします。

○会長

なるべく市民の声は、ニーズですからそういうものを集めて、そのニーズに合うような施策を打たれるっていうのも、これからの方法だと思いますので、苦情とか相談っていうのは、市民ニーズだというふうにお考えいただいて、そういった窓口、よろず相談があれば素晴らしいことなので、そういったところにどんなニーズがあるんだろうってところから、政策を考えていただいて、今本当に市役所それぞれが、自分たちで指導政策を考えていかなきゃいけない時代なんですけども、なかなかどこから手をつけていいかわからない。私もよく相談受けるんですけど、どうしたらいいか。だいたい自治研修所で勉強してもらって、大体ほとんどなくなっちゃうんですけど、そうじゃなくてやっぱり市民に向き合うっていうのが本来でしょうねって話をする中で、苦情やご相談事っていうのは非常に大事な意見だし、せっかくこういう機会なので、ちょっと関係ない話かもしれませんが、教えていただきたいと思います。

他よろしいでしょうか何か全体を通して、他よろしいでしょうか。

全体を通して説明ください。

○委員

すいません。

ちょっと謡曲高砂の件なんですけれども、このひょうご民俗芸能祭にしてもこの謡曲合唱団がでくださるんですけれども、やっぱりご年配の方ばかりなんですよね。

これ、子供の頃からこれだけ歌わせて、さかんにしようと、また高砂市のシンボルであるような謡曲高砂というところ。こういう場面で子供たちが歌えるという、そういう組織的なものを作っていこうというお考えはございませんでしょうか。

要するに、こういう機会をとらえ、もっととらえたら、もっと熱心に謡われるような仕組みという感じでね、淡路の人形浄瑠璃にしても後継者問題で、非常に大変だということをお聞きしますけれど、これだけ力入れて小さい時からやってるわけで。ええ。

だから子供たちがこれだけ歌えるんですよという、何かこう発表する、こういうときなんかいい機会だと思うんですね、東播の人たちがみんな集まってね。

淡路島からも来るんですね。

○会長

ご質問に対してお答えいただければ助かります。

○副会長

実は謡曲高砂は私の方でね、入れさせてもらったんですけれども、最初はちょっと、そういうジョイントを考えたんですけれども、ちょっと謡曲高砂合唱団の方が舞を入れるとね、仕舞を入れるっていうことにはなったんですけども、当初私の思いとしてはそういうこともあってもいいかなと思いはしました。

はい。

どうぞ

○事務局

謡曲に関してなんですけれども、今回私、高砂学の謡曲編させてもらってまして、実を結んだと言うべきなのかわかんないんですけども、今回小学生が2人受講していただいています。子供といたら1つあるのかなと。先ほどもお話ありました高砂市の観月能ですけども、こちらでは、謡曲高砂の大合唱ということで、高砂高校の生徒会の有志の子たちもこちらで披露してくれます。子供たちに対しての謡曲いうとちょっとそのあたりになってしまうんですけども、うん。

○委員

観月能にしても入場料が結構なお値段でしょ。だから、結構なお値段で、割とチケットをさばくのも大変だと、地元の方たちからそれも話聞いてるんですね。

だから高砂市内ではやってるんだけどもこういう本当にね、広くから集まれるそういう場でね。何で披露しないんだと。残念、もったいない残念な感じですね。

○事務局

確かにそこまで声をかければよかったです。

○委員

いやこの、謡曲合唱団にしたって文化連盟には入っておられない方たちだから出てよいか。

そこら辺はどうなのかわかりませんが、本当にそれを力入れてやっていこうとしてるわけですから、もう何年も経って、ある程度取り組んできてるわけですね。

うん。ブライダルの高砂と、言うてるわけですね。だからそこもうちょっとアピールのし方を上手に、何か仕組んでいけばいいんじゃないかなと思うんですけど。

どんなもんですか。

組織として何かこう、本当に淡路の人形浄瑠璃いうぐらいに、何かこう設定していくという、どうでしょう。次世代が頑張ってるよという。

○事務局

謡曲については、文化スポーツ課として新たにこういう発信っていうことまでは、していないんですけども、高砂学をさせてもらってる体感としては、かなり皆さん熱心にしていただいてまして、今回謡曲編に参加して下さってる方については、こちらの観月能の能楽フェスティバルっていうところで、高砂文化会館の中ホールの方に出演するっていうような形になってまして、そういったところに出ませんかっていうふうなお声掛けさせてもらったら、かなりの割合で、皆さん出たいというふうにはおっしゃってくださってまして、謡曲に対して、熱は高いです。そして謡曲のCDもですけども、家で練習したいねっていうような方とか、孫の結婚式で謡わせてほしいっていうような方も、かなり熱心に謡曲のCDに持って帰って練習したっていうような声も聞いてまして、熱心な方もいらっしゃいます。

○委員

それこそプロの能楽師に教えていただいて、同じ舞台に出るなんて、孫が近くにいたら是非とも出したいなと、思うぐらい恵まれた環境だと思うんですけど、それをね、外に向かってね、もっとまたアピールしていけたらどうかと。

あれは5000円ぐらいはするんですかね。入場料は

観月能は奉納の方は、高砂神社で奉納する方については、指定席3000円で自由席2000円なんですけど、能楽フェスティバルの方は、前段階、いわゆる前夜祭じゃないんですけど、ちょっと昼間にする方については無料で来ていただけるようなものです。

○委員

ちょっと値段下がったんですかね。市民の方とかこの地域の方、結構お客さんはね、いつも観月能いっぱい、うん。盛況でいらっしゃいますもんね。

○会長

どうもありがとうございます。

ライブ感っていうのをどう大事にするとか、結構文化活動では大事なんですね。

そういう意味ではそういった機会をできるだけ多く、特に若い方に与えたいというのは、皆さん、おそらく共通する意見だと思いますので、こういう機会がありましたら、ちょっと今回はね、もう間に合わない話かもしれませんが今後同じような機会があれば、できるだけ、そういうことにもちゃんと認識していただいてお声掛けいただくということでお願いしたいと思います。

ライブ感ってすごく大事なので、よろしくお願ひしたいと思います。

皆さんご意見よろしいでしょうか。

○事務局

今後のスケジュールというところでご説明させていただきます。

今日は貴重なご意見ありがとうございました。

令和6年度の第2回につきましては11月ごろ開催の予定をしております。

本日は回答ができなかった或いは取りまとめたものを、次回会議或いは議事録の中で報告できるものについてはさせていただいた上で、いろいろ、第2回でお示しさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

説明以上です。

閉会にあたりまして副会長をします。

○副会長

はい。

ちょっと苦情ということで、思い出したことがあったんですけど曾根交流センターができたときに、1つは、葬会が演奏されることを今言ったんですけども。

そして、これ、曾根の交流センターを使ってる方、ずっと議会もいろいろ見ていたんですけども、なんでその使ってるサークルの人たちの意見を建てる時に聞かなかったんだろう、と。

大きく広くはなかったけど、すごくそのサークルの立場から言うと使いにくいね、間取りになってるっていうのはすごく、検証しようがないし、聞かされはしたんですけど、ちょっとそんな意見がありました。

申し上げておきます。

ですからまあ、謡曲を広げるって言ってますけど大江さんっていう方が、謡曲高砂っていう本も出されて、それどういうふうに言われたかっていったら、この謡曲高砂のところにめでたいことは一切ありませんでしょ。これは、実はその謡曲高砂は一番としてうたってるけれども、四海波と千秋楽の間にある船道中の詩でね、日本人の心としてちょっと神様が乗ろうとして、直接、歌えない。

だから、船道中の歌を歌って千秋楽で神様を言葉にしているんだということが、大江さんの本で、面白いこういう観点のね、謡曲もあるのかなと思ってましたんですけども、それにしても、高砂は謡曲高砂として非常に有名だし、有名な以上は先ほど委員も言われたけども、他に謡曲高砂をうたってもらったことになったんですけども、いろんな形でジョイントしながら、多くの場で皆さんが接しておられる、そういう明るい謡曲にしていきたいと思いますので、頑張っていきたいと思いますどうぞご苦勞様でした。

○事務局

ありがとうございました。

それではこれにて閉会いたします。どうもありがとうございました。